

# アセアン諸国の経済発展過程について (1)

厚 母 浩

## 目 次

- I. はじめに
- II. アセアン諸国の経済成長と工業化
  - 1. 経済成長の推移
  - 2. 産業構造
  - 3. 貿易構造 (以上本号)
- III. アセアン諸国の工業化政策
- IV. アセアン諸国の対外経済構造
- V. おわりに

## I. はじめに

アセアン諸国<sup>(注1)</sup>は、かつて植民地化されており（タイを除く）、宗主国への原料供給基地及び宗主国工業製品のマーケットとして位置付けられ、モノカルチャー経済構造が形成されていた。植民地化されなかったタイも、経済的には同じような状況におかれていた。

このような状況の中で1950年代にはいって各国とも工業化を進めてきた。この時期とられた工業化政策は輸入代替工業化政策であった。しかしながら60年代半ば以降、多くの問題が出てくることとなった。すなわち、アセアン諸国（シンガポールを除く）においては輸入代替工業化を目的とした保護貿易措置が長期間にわたり続けられたため、国内産業が海外との競争にさらされることなく、非効率なものになってしまった。そのため、国内産業の国際競争力は弱く、工業製品については税制上の優遇措置や補

助金など輸出振興政策により競争力を補強する必要が出てきたのである。そこで70年代にはいって、輸出指向型工業化政策を展開していった。

60年代及び70年代のアセアン各国の実質経済成長率は工業国をはるかに上回る高成長を達成した。

しかし、80年代にはいり、原油を中心とした一次産品価格の低迷、一次産品輸出に依存した政府歳入の減少と対外債務返済の増大による財政支出の縮小、輸入代替工業の国内市場の飽和化などによって、各国とも成長率が鈍化しはじめた。

そこで経済発展のために輸出工業化、輸出振興に積極的に取り組む国が増えていく。

すなわち、まず国際収支及び国家財政対策として、輸入抑制、プロジェクトの見直し、対外債務管理の強化の実施などを行なう一方、特に工業製品輸出振興に力を入れはじめた。あるいは規制緩和、税制改革、民間部門の活用などの構造改善を進め、外資規制の緩和により外資導入を図ってきた。

発展途上国・地域の中では、すでに韓国、香港、台湾、シンガポールといった国々が輸出指向型工業化で大きな成果を上げているが、アセアン諸国も輸出工業化に積極的に取り組みはじめていく。

例えば、タイでは、第6次経済社会開発5ヶ年計画（87～91年<sup>(注2)</sup>）で東部臨海開発、輸出振興を重点にすると共に、輸出産業育成のための外資の誘致、品質改善、生産性向上に力をいれている。マレーシアも工業開発総合計画（86～95年<sup>(注3)</sup>）で輸出指向産業の振興を推進中であり、投資促進を図るために外資規制緩和を実施した。インドネシアでは石油価格下落の影響で開発プロジェクトが大幅にスローダウンしたため、非石油・ガス輸出の振興を図るため輸出振興政策、外資規制緩和を定めた。

アジア地域内で「北高南低」といわれた経済成長率格差が急速に縮小し、アセアン諸国の一部の国はNIES諸国並の成長率を実現する国さえ現れている。こうした動きの背景にはNIES諸国の通貨の切上げや労賃の上昇が

続いた結果、アセアンの輸出競争力が相対的に強まったという事情もあるが、中長期的に見れば、アジアの工業国・地域で成長の中心が日本から NIES、さらにアセアンへと移りつつあるということもできるかも知れない。

しかし、このような経済発展を続けるアセアン諸国の工業化過程も諸条件によってそのパターンも異なっている。<sup>(注5)</sup>

以上このような状況をふまえながら、アセアン諸国の経済発展過程における要因を中心に、論述する。

(注1) 本稿においては、アセアン加盟国のうちブルネイは除外する。

(注2) 詳しくはⅢでみる。

(注3) 詳しくはⅢでみる。

(注4) 1989年、10月25日の OECD 会議において、これまで使用されてきた NIES という表現を改め、アジア NIES 諸国であった韓国、台湾、香港、シンガポールに、さらにタイとマレーシアを加え、新たに DAE (Dynamic Asian Economies) 即ち、ダイナミック・アジア経済群という呼称に変更することが決まった。

(注5) 詳しくはⅢでみる。

## Ⅱ. アセアン諸国の経済成長と工業化

### 1. 経済成長の推移

1960年代から70年代にかけてのアセアン諸国は、NIES とともに「世界のグロースセンター」と呼ばれるほど高成長を示した。

たとえば60年代においてはシンガポールの9.2%を最高に、タイの7.9%、フィリピンの5.2%と続き、インドネシアは3.8%と非常に低い。

また70年代においても、シンガポールの9.5%を最高にインドネシアの8.0%、マレーシアの7.9%、タイの6.9%、フィリピンの6.3%と、ほとんどの国が60年代を上回る成長を示した。

80年代にはいると、国によって必ずしも一様でないが、まず82年に一度下降し、84年にはふたたび上昇したものの85年には急激に落ち込むことになる。(第1表)

第1表 ASEAN 諸国の成長率の推移

(単位：%)

		1960~80			1980 ~85	80	81	82	83	84	85	86	87	88
		60~70	70~80											
ASEAN 諸国	タイ	7.4	7.9	6.9	5.1	5.8	6.3	4.1	5.9	5.5	3.2	3.5	8.4	11.0
	マレーシア	7.3	n.a.	7.9	5.5	7.5	6.9	5.9	6.3	7.8	△1.0	1.0	5.2	8.7
	シンガポール	10.2	9.2	9.5	6.5	14.0	9.9	6.3	7.9	8.2	△1.8	1.9	-	-
	フィリピン	5.9	5.2	6.3	△0.5	5.0	3.4	1.9	1.1	△6.9	△4.4	1.5	5.7	6.7
	インドネシア	7.9	3.8	8.0	3.5	9.9	7.9	2.2	4.2	6.1	1.9	n.a.	3.6	5.4

(注) フィリピンは実質 GNP 成長率でその他は実質 GDP 成長率

出所：1980年～86年数値は、日本輸出入銀行海外投資研究所「海外投資研究所報」1988. 1, 14-1。

1987年数値は、アジア経済研究所「アジアトレンド」1989-1。

1988年数値は、「日経新聞」1989年6月29日付。

70～80年代の世界経済におけるアセアン経済の位置付けをみると、70年代、特に第一次石油危機の後で、多くの先進国は低成長に移行した。日本の実質経済成長率は1960年代は平均10%の成長を遂げていたのに、74年以降は5%を越えることはなかった。アメリカも2～3%の低成長であった。

これにたいしてアジアの発展途上国は1970年代を通じて高成長を持続した。NIES 諸国は平均8～10%、アセアン諸国は6～8%の成長であった。しかし、80年代にはいると85、86年度にタイを除き2%からマイナス2%の低成長に落ちこんだのである。

アセアン経済停滞の共通要因として、次のことがあげられよう。即ち各国とも高度成長期には高率の投資/GNP 比率を続けてきた。そして投資の源泉は輸出収入であった。1980年代にはいつて原油、その他一次産品の価格、数量が低下して、輸出収入が減少すると、投資が減少し、投資/GNP 比率も大幅に引き下げられた。すなわち、アセアン諸国では、原油、一次産品価格の上昇で輸出投資の好循環が働いたのが、下降局面では悪循環に転じた。

しかし、各国別に見ると、資源の賦存状況や輸出構造によって、異なっている。

インドネシアは、原油と農産物の価格低下と輸出数量減で、輸出収入が減少した。合板と繊維を除く輸出向け工業製品も減少した。85年の実質成長率は2%以下であった。そこで、1986年には政府が総合経済政策を打ち出して、非石油輸出と外国投資の促進を図っている。

マレーシアも原油、ゴム、パーム油の価格、数量の低下で輸出収入減少に悩んだ。鉱工業生産は減少し、国内の投資、消費とも不振であった。

タイは原油輸出に依存していないため、経済は安定している。また、繊維、靴、玩具、農産加工品の輸出が活発で、生産も伸びている。

シンガポールは、84年の8%から85年にはマイナス2%急落した。これは基本的には隣国のインドネシアとマレーシアの経済が不振であったためであるが、直接的にはそれまで続いていた建設ブームの急停止と、石油製品輸出減退の影響であった。86年には1.9%に上昇した。これは電子機器を中心とした工業製品輸出の好調によるものである。

フィリピンは85年はマイナス4%、86年には0.1%になったが、これは政治不安定のせいといえる。国内の消費、投資とも停滞しており、外国投資も輸出もまだ回復していない。労働争議も頻発して、失業率も高い。

しかし、その後回復をみせはじめ、87年から88年にかけて各国とも高い成長率を示しているが、88年についてみるとタイが11.0%マレーシアの8.7%と非常に高い。上半期においては、フィリピンのマイナス成長を除き、シンガポールの7.8%を最高に4~5%台であった。これらはいずれも60、70年代を下回る成長率であった。

しかし、中、長期でみればアジアの工業国・地域での成長の中心が日本からNIES、更にアセアンへと移りつつある。

アセアン諸国の経済成長力は“北高南低”の傾向がはっきりしてきた。1989年6月の時点で、各国の公式機関において経済成長率を次のように修正している。(第2表) まずタイとマレーシアが1989年の成長率の見通しの上方修正に踏み切ったのにたいし、フィリピンは下方修正を迫られた。インドネシアも輸出、外国投資受入れの伸びで不安材料が出てきた。

タイはタイ開発研究所が8.0%から9.2%へ引き上げた。また、タイ中央銀行も8.0%から9.0%に修正した。

こうした修正の大きな要因は消費景気、特に自動車の89年1～5月の販売台数が前年同期比37.8%増となったこと。また輸出が同、30.5%増の高成長を続けていることなどである。これは、建設投資ブームが牽引となっている。

同様にマレーシアも中央銀行が89年の GDP 見通しを、7.3%から8.0%

第2表 実質経済成長率

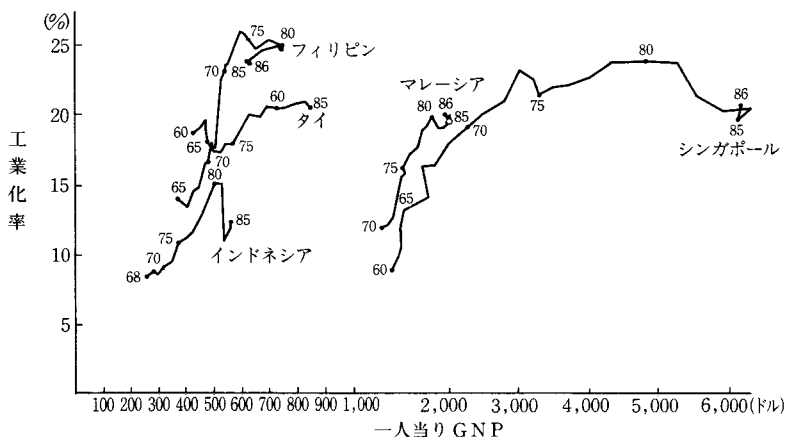
	87	88	89 (見通し)
ブルネイ	1.1	2.2	2.0以上
インドネシア	3.6	5.4	5.0以上
マレーシア	5.2	8.7	8.2
フィリピン	5.9	6.7	6.0
タイ	8.4	11.3	9.2

(注) GDP ベース、フィリピンのみ GNP。

公式統計又はそれに準ずるデータ。

出所：「日本経済新聞」1989. 6. 29付。

第1図 ASEAN 各国の工業化率と一人当たり GNP の関係



出所：日本輸出入銀行海外投資研究所「海外投資研究所報」第14巻1号1989. 1

へ修正した。タイと同様に国内の消費、投資が好調の他、輸出も1～2月で前年同期比19.4%高い伸びを示している。

フィリピンは政府が、89年のGNP見通しを6.5%から、6.0%へ引き下げた。これは、農林業の低迷と国内消費の減速などによる。

次にアセアン諸国の工業化率と一人当たりGNPとの関係をみると、第1図のように、工業化が生活水準の向上と密接に関係があることが分かる。

以上のようにアセアン諸国の高成長には工業化の進展が大きく寄与しているが、このことを次に産業構造と、貿易構造の両面からとらえてみることにする。

## 2. 産業構造

アセアン諸国の以上のような経済成長をまず産業別にみてみることにする。まず農業に占めるシェアを1986年でみると、フィリピンを除き約1/2に減少している反面、工業に占めるシェアではシンガポールの38%を最高にフィリピンの32%、タイの30%と続いている。(第3表)

シンガポールは従来から貿易港として商業が発達し、1965年には7割以上を占めていた。また、工業も24%にすぎなかったものが、外資を通じた工業化政策が成功し、石油精製、造船、電機機械などの分野に外資が流入して工業化率が向上した。

フィリピンでは独立後早い段階にアメリカを中心とした外国資本が進出し、輸入代替工業化が進み、70年には第二次産業に占める割合は27%に達していた。

タイでは米、錫などの伝統的の一次産品に加えて、トウモロコシ、砂糖などの新規作物による農業振興を図ると共に、これらの原料とする食品工業や外資導入による繊維工業や化学工業の育成が見られ、65年には36%を占めていた第一次産業は、85年には25%、86年には17%まで低下し、また、65年に22%しか占めていなかった第二次産業が85年に28%、86年には30%に達し、第一次産業をはるかに上回るまでになった。

インドネシアは農業に加えて石油やLNGの開発により70年において第

第3表 ASEAN諸国の産業構造

(単位：%)

		第一次産業	第二次産業	第三次産業
タ イ	1960	39.3	18.4	42.4
	65	35.6	22.1	42.3
	70	33.9	22.4	43.7
	75	31.7	23.8	44.5
	80	26.5	28.3	45.3
	85	24.8	27.8	47.4
マ レ ー シ ア	1960	n. a.	n. a.	n. a.
	65	n. a.	n. a.	n. a.
	70	36.0	20.3	43.8
	75	32.2	22.3	45.5
	80	32.8	26.0	41.1
	85	31.3	26.2	42.5
シ ン ガ ポ ー ル	1960	4.1	18.3	77.6
	65	3.3	23.4	73.3
	70	2.9	28.7	68.4
	75	2.0	30.0	68.0
	80	1.6	31.4	67.1
	85	1.3	30.1	68.7
フ ィ リ ピ ン	1960	30.8	18.8	50.4
	65	29.6	19.1	51.4
	70	31.0	27.4	41.6
	75	28.8	32.0	39.2
	80	28.0	33.7	38.2
	85	31.3	30.3	38.5
イ ン ド ネ シ ア	1960	n. a.	n. a.	n. a.
	65	n. a.	n. a.	n. a.
	70	54.9	11.4	33.7
	75	47.7	16.4	35.9
	80	39.9	21.7	38.4
	85	41.8	19.1	39.2

(注) 第一次産業：鉱業も含めた

第二次産業：製造業、公益事業、建設業

出所：第1図に同じ。



一次産業が半分以上を占めていたが86年では26%となり、逆に第二次産業は13%から32%へと増加し、工業化が進んだ。

また、各産業の年平均増加率を1965年から80年までと、1980年から87年までを比較した数値を見ると、工業部門では65年から80年ではシンガポールとインドネシアが11.9%、タイの9.5%、フィリピンの8.0%と急速に工業化が進んできたが、80年から87年の間ではフィリピンのマイナス2.8%、インドネシアの2.1%と大きく落ち込んだ反面、タイの5.9%、マレーシアの5.8%と落ち込みは低かった。このことはつぎにみていくことになるが、貿易政策の違いによるものであった。(第4表)

第4表 生産の増加 (年平均増加率：%)

	GDP		農業		工業		(製造業)		サービス業	
	1965-80	1980-87	1965-80	1980-87	1965-80	1980-87	1965-80	1980-87	1965-80	1980-87
インドネシア	8.0	3.6	4.3	3.0	11.9	2.1	12.0	7.5	7.3	5.6
フィリピン	5.9	-0.5	4.6	1.8	8.0	-2.8	7.5	-1.1	5.2	-0.0
タイ	7.2	5.6	4.6	3.7	9.5	5.9	11.2	6.0	7.6	6.4
マレーシア	7.4	4.5	—	3.4	—	5.8	—	6.3	—	3.8
シンガポール	10.1	5.4	2.8	-3.9	11.9	4.0	13.2	3.3	9.4	6.4

出所：世界銀行「世界開発報告」1989。

### 3. 貿易構造

まず各国別の輸出構造を見ると、まず輸出増加率を60年代、70年代、そして80～85年と三段階に分けてみると、60年代に比べ70年代ではフィリピンを除き増大したが、80年代上半期になると各国とも輸出の伸びが鈍化し、特にフィリピンで6.8%からマイナス0.1%へ、さらにインドネシアでは17.7%がマイナス1.5%と大幅に低下している。(第5表)

また輸出の対 GDP 比率をみると、1965年にはシンガポールで129%と対外依存度が高く、次いでマレーシアの42%、タイ17%、フィリピン17%でインドネシアは5%ともっとも低い。しかし、1985年になると、各国と

第5表 ASEAN 諸国の輸出増加率 (注1)

(単位：%)

	1960～70	1970～80	1980～85
タイ	7.4	11.1	6.3
マレーシア	n. a.	10.4	4.1
シンガポール (注2)	4.3 (63～70)	28.8	3.4
フィリピン	11.5	6.8	△0.1
インドネシア	n. a.	17.7	△1.5

(注1) 国民所得統計上、輸出項目(名目)をGDPデフレーターで実質化し、当該期間の年平均増加率を算出した。

(注2) シンガポールの場合、上記統計がないため、国際収支上の財輸出(名目)の平均増加率を算出した。

出所：第1図に同じ。

も依存度を高め、シンガポールが163%、またもっとも依存度の低いフィリピンでも、22%に達した。(第6表)

第6表 輸出の対GDP比率の推移

(単位：%)

	1965	1985
タイ	18	27
マレーシア	42	55
シンガポール	129	163
フィリピン	17	22
インドネシア	5	23
開発途上国	13	21
市場経済工業国	12	18

(注) シンガポールの国民所得統計の中では、純輸出(輸出-輸入)の統計しか公表されていないため、ここでは国際収支上の財・サービス輸出の対GNP比をとった。

出所：第1図に同じ

65年と85年の比較において、65年の各国の輸出に占める一次産品の比率は非常に大きかったが、85年になると大幅に縮小した。しかし、タイでは特に食料を中心とした一次産品の輸出が45.6%と約半分近くを占めている。逆に工業製品の輸出比率が拡大した。特にシンガポールとマレーシア

第7表 アジア諸国の輸出構造

(単位：%)

		一次産品 (0~4)				工業製品 (5~9)					
		食糧 0+1	原料 2+4	燃料 3		化学品	原料	製品	機 械	雑製品	その他
						5	6	7	8	9	
シン ガ ポ ー ル	1960	72.9	15.3	46.3	11.3	24.4	2.5	9.0	4.0	2.9	6.0
	1965	59.7	16.0	29.3	14.4	35.1	3.6	11.9	5.3	5.1	9.2
	1970	63.4	13.1	33.0	17.3	33.6	2.7	8.9	8.0	5.2	8.8
	1975	49.7	7.5	15.2	27.0	50.2	3.7	8.5	22.7	6.9	8.4
	1980	48.1	5.2	14.0	28.9	51.9	3.4	8.3	26.8	6.2	7.2
	1985	40.4	4.9	8.4	27.1	59.6	5.4	7.2	33.0	6.7	7.3
マ レ ー シ ア	1960	81.9	3.9	70.1	7.9	17.6	0.5	15.0	0.9	0.5	0.7
	1965	67.9	6.4	57.1	4.4	29.0	1.2	24.3	1.8	0.7	1.0
	1970	71.6	7.1	57.3	7.2	28.4	1.1	22.7	2.1	1.3	1.2
	1975	68.5	6.7	51.3	10.5	31.5	0.9	17.6	6.2	5.7	1.1
	1980	71.6	3.7	43.4	24.5	28.4	0.6	13.1	11.5	2.6	0.6
	1985	67.9	4.4	31.8	31.7	32.2	1.1	8.1	18.7	3.7	0.6
タ イ	1960	95.7	45.7	50.0	0.0	2.1	0.1	1.1	0.0	0.2	0.7
	1965	91.7	53.1	38.3	0.3	5.4	0.1	4.6	0.1	0.2	0.4
	1970	77.7	48.5	28.9	0.3	18.7	0.2	14.8	0.1	0.4	3.2
	1975	76.2	60.4	15.2	0.6	23.9	0.5	14.3	1.3	3.5	4.3
	1980	60.2	45.6	14.5	0.1	39.8	0.7	22.1	5.7	6.4	4.9
	1985	57.3	45.6	10.4	1.3	42.6	1.3	18.5	8.8	12.4	1.6
イ ン ド ネ シ ア	1960	99.1	12.9	59.9	26.3	0.7	0.1	0.5	0.1	0.0	0.0
	1965	97.8	13.7	45.7	38.4	2.3	0.5	0.0	0.9	0.9	0.0
	1970	93.2	11.6	50.3	31.3	2.0	0.5	1.0	0.3	0.0	0.2
	1975	97.6	5.7	17.1	74.8	2.4	0.3	1.3	0.5	0.3	0.0
	1980	96.0	5.6	16.1	74.3	4.1	0.4	2.6	0.5	0.5	0.1
	1985	86.1	8.7	9.8	67.6	13.9	1.1	9.7	0.5	2.4	0.2
フ ィ リ ピ ン	1960	96.4	32.6	63.8	0.0	3.4	0.4	2.6	0.0	0.2	0.2
	1965	93.4	27.8	64.9	0.7	5.6	0.3	4.8	0.0	0.4	0.1
	1970	91.2	27.0	62.6	1.6	8.0	0.5	6.5	0.1	0.9	0.0
	1975	77.9	37.7	38.6	1.6	22.2	1.0	10.4	0.5	4.4	5.9
	1980	60.4	24.8	34.9	0.7	39.6	1.5	9.2	2.2	10.5	16.2
	1985	36.2	17.7	17.6	0.9	58.5	3.1	9.7	6.6	12.1	27.0
日 本	1960	10.5	6.3	3.8	0.4	89.2	4.5	45.7	22.9	16.1	0.0
	1965	7.5	4.1	3.0	0.4	85.6	0.4	40.1	31.3	13.8	0.0
	1970	5.4	3.4	1.8	0.2	87.6	0.2	33.5	40.6	13.3	0.0
	1975	3.4	1.4	1.6	0.4	88.8	0.4	31.4	49.2	7.8	0.0
	1980	2.7	1.2	1.1	0.4	91.3	0.4	24.1	54.7	11.9	0.2
	1985	1.9	0.8	0.8	0.3	92.8	0.3	17.7	60.3	14.5	0.0
韓 国	1960	83.2	30.9	48.8	3.5	13.8	1.2	12.0	0.3	0.3	0.0
	1965	38.9	16.6	21.2	1.1	61.0	0.2	37.9	3.1	19.7	0.1
	1970	22.7	9.6	12.0	1.1	77.4	1.4	26.4	7.4	42.2	0.0
	1975	18.3	13.3	2.8	2.2	81.7	1.3	29.4	15.0	35.8	0.2
	1980	9.6	7.3	2.0	0.3	80.5	4.3	35.7	20.3	19.9	0.3
	1985	8.2	4.1	1.0	3.1	91.7	3.1	23.3	37.6	27.6	0.1
台 湾	1960	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	1965	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	1970	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	1975	18.6	15.6	1.9	1.1	81.2	1.9	23.7	19.5	36.1	0.0
	1980	11.8	8.6	1.7	1.5	88.2	2.5	23.0	24.7	38.0	0.0
	1985	9.3	5.6	1.9	1.8	90.8	2.5	21.6	27.9	38.8	0.0

ADB Key Indicators of Developing Member Countries of ADB 各年版  
出所：第1図に同じ。

第8表 ASEANの輸出推移

		インドネシア (100万ドル)			
		65年	70年	80年	85年
輸出総額		707.65	1,160.57	21,908.89	18,689.49
輸出 TOPIO	1 ゴム	31.4	原油 38.5	原油 63.3	原油 44.4
	2 原油	24.8	ゴム 21.8	天然ガス 13.2	天然ガス 19.6
	3 石油製品	13.7	スズ 9.1	材木 8.3	合板など 5.1
	4 スズ	5.6	材木 8.7	ゴム 4.9	ゴム 3.9
	5 コーヒー	4.5	コーヒー 6.0	コーヒー 3.0	コーヒー 3.0
	6 パーム油	3.9	パーム油 3.1	スズ 2.0	石油製品 2.4
	7 タバコ	2.6	コブラ 2.6	パーム油 1.2	パーム油 1.9
	8 コブラ	2.5	茶 1.6	エビ 0.8	基礎金属鉱石 1.4
	9 茶	2.4	タバコカ 0.7	ニッケル 0.7	アルミ・インゴットスズ 1.3
	10 こししょう	1.3	ニッケル 0.5	銅 0.6	スズ 1.3
工業品/輸出シェア		—	—	3.8	13.7
輸入総額		694.6	1,001.5	10,834.4	10,259.1
		シンガポール (100万Sドル)			
		60年	70年	80年	85年
輸出総額		3,477.1	4,755.8	41,452.3	50,178.8
輸出 TOPIO	1 ゴム	41.2	ゴム 24.7	石油製品 28.5	石油製品 26.7
	2 石油製品	10.9	石油製品 17.2	ゴム 7.9	電子部品 6.3
	3 コーヒー	4.9	コーヒー 4.8	電子部品 6.3	家電・同部品 4.8
	4 生鮮食品	4.4	生鮮食品 3.3	家電・同部分 6.0	ゴム 3.0
	5 繊維	3.4	繊維 3.0	船舶 2.2	パーム油 2.5
	6 食品	2.5	自動車 2.5	パーム油 2.2	衣料 2.3
	7 自動車	2.3	材木 2.3	衣料 2.0	コーヒー 2.0
	8 タバコ	2.0	衣料 2.0	産業機械 1.9	産業機械 1.7
	9 産業機械	1.3	パーム油 1.8	繊維 1.6	繊維 1.3
	10 鉄鋼	1.2	食品 1.7	コーヒー 1.5	食品 1.1
工業品/輸出シェア		25.6	27.8	44.6	52.3
輸入総額		4,007.7	7,533.8	61,344.8	67,817.6
		マレーシア (100万リンギ)			
		60年	70年	80年	85年
輸出総額		3,846	5,163	28,172	38,327
輸出 TOPIO	1 ゴム	38.3	ゴム 33.4	原油 23.8	原油 23.0
	2 スズ	20.6	スズ 19.6	ゴム 16.4	電子陰極管 11.8
	3 丸太	10.0	丸太 12.5	丸太 9.3	ゴム 7.5
	4 鉄鉱石	3.6	パーム油 5.1	スズ 8.9	丸太 7.2
	5 パーム油	3.1	材木 3.9	電子陰極管 8.1	LNG 6.0
	6 材木	2.1	鉄鉱石 2.1	材木 4.2	パームオレイン 6.2
	7 バイナッフル缶詰	1.1	こししょう 1.1	パームオレジン 3.9	スズ 4.3
	8 こししょう	0.9	バイナッフル缶詰 0.9	パーム油 3.3	石油製品 2.6
	9 ココナツ油	0.6	ココナツ油 0.8	パームスチアリン 1.7	材木 2.5
	10 コブラ	0.5	パーム核 0.2	アクセサリ部品 1.2	パーム油 2.3
工業品/輸出シェア		—	6.4	17.3	27.2
輸入総額		3,379	4,288	23,451	30,558
		タイ (100バーツ)			
		65年	70年	80年	85年
輸出総額		12,941	14,772	133,197	193,366
輸出 TOPIO	1 コメ	33.6	コメ 17.0	コメ 14.6	繊維 12.2
	2 ゴム	16.4	ゴム 15.1	タバコカ 11.2	コメ 11.6
	3 スズ	9.0	メイズ 13.3	ゴム 9.3	タバコカ 7.7
	4 ジュート	8.6	スズ 11.0	スズ 8.5	ゴム 7.0
	5 メイズ	7.8	タバコカ 8.3	繊維 7.2	IC 4.3
	6 タバコカ	6.2	ジュート 4.9	メイズ 6.5	メイズ 4.0
	7 ジュート	1.2	ジュート 1.7	IC 4.6	宝石 3.3
	8 マングビーン	0.9	エビ 1.5	宝石 2.4	砂糖 3.2
	9 カボック	0.9	鉱石 1.5	砂糖 2.2	スズ 2.9
	10 エビ	0.8	タバコ 1.3	エビ 1.5	魚缶詰 2.7
工業品/輸出シェア		0.6	15.5	34.7	41.0
輸入総額		16,433	27,009	188,686	251,169
		フィリピン (100万ドル)			
		60年	70年	80年	85年
輸出総額		558.9	1,061.7	6,787.8	4,629.0
輸出 TOPIO	1 コブラ	24.8	材木 23.5	砂糖 10.8	半導体装置 15.3
	2 砂糖	23.9	砂糖 17.6	ココナツ油 9.8	ココナツ油 7.6
	3 材木	16.4	銅 17.4	銅 9.4	IC 3.8
	4 アハカ	7.5	ココナツ油 9.0	半導体装置 8.7	砂糖 3.7
	5 ココナツ	3.4	コブラ 7.5	金 4.1	銅 3.6
	6 銅	2.4	バイナッフル缶詰 2.0	材木 3.1	バナナ 2.2
	7 クロマイト	3.1	アハカ 2.0	合板 2.4	衣料 2.2
	8 ココナツ油	2.8	合板 1.9	バナナ 2.0	金 2.2
	9 鉄鉱石	1.5	ココナツ 1.8	ココナツ 2.0	鉄鉱石 2.0
	10 バイナッフル缶詰	1.3	鉄鉱石 1.0	鉄鉱石 2.0	材木 2.0
工業品/輸出シェア		3.2	13.3	33.4	69.8
輸入総額		603.9	1,090.1	7,726.9	6,111.0

(注) シンガポールは輸出は石油製品を除く。工業品は SITC 5-8 ケタ。  
出所: TETRO「ジェットロナー」1987年11月。

は65年時点でそれぞれ35.1%、29.0%と他の国の2～3%と比べて高い比率の工業製品の輸出を達成していた。85年にはインドネシアの10%台を除いて30～50%台と高くなっており、シンガポールでは約60%、またフィリピンが約59%となっている。シンガポールでは石油製品が26.7%を占め、またマレーシアでは原油の23%、また、電子部品の11.8%など機械製品の輸出が伸び、タイでは繊維製品などの原料別製品、また、インドネシアでは原油や天然ガスが64%も占めているが、その他にも合板などを中心とした原料別製品の輸出も伸びた。(第7表、第8表)

一方、輸入構造を見てみると、第9表のように60年から84年の間、消費財輸入の割合は縮小し、代って原料、資本財の輸入が拡大している。例えばインドネシアでは60年に45%占めていたものが84年は12%へ、また、マレーシアでも60年に45%から83年数値であるが21%へ、フィリピンは27%から13%へ、シンガポールは34%から21%へ、タイは39%から16%へ、それぞれ縮小した。

以上のようにアセアン諸国は、60年代後半以降の輸入代替工業化によって、消費財、特に食料の自給をかなりの部分達成したといえることができる。(第9表)

第9表 アセアン諸国における輸入構成比の変化 (単位：%)

		消費財			原料			資本財
		食料	その他の消費財		消費財原料	資本財原料		
インドネシア	1960	45	23	22	28	24	4	27
	65	36	21	15	26	16	10	39
	70	27	15	12	26	16	10	48
	75	18	12	6	31	25	6	51
	80	20	12	8	35	28	7	45
	83	22	7	15	32	22	10	45
	84	12	5	7	41	32	9	46
マレーシア	1960	45	24	21	36	24	12	19
	65	41	22	19	29	21	8	29
	70	35	18	17	31	22	9	35
	75	31	17	14	28	19	9	41
	80	18	n. a.	n. a.	50	n. a.	n. a.	30
	83	21	n. a.	n. a.	47	n. a.	n. a.	30
	84	32	14	18	18	9	9	50
フィリピン	1960	27	15	12	27	19	8	46
	65	27	19	8	28	23	5	44
	70	16	10	6	39	29	10	46
	75	19	9	10	42	37	5	39
	80	24	7	17	47	37	10	30
	83	27	7	20	46	37	9	27
	84	13	7	6	44	38	5	21
シンガポール	1960	34	14	20	57	37	20	9
	65	44	20	24	37	28	9	19
	70	37	13	24	33	25	8	30
	75	19	9	10	42	37	5	39
	80	24	7	17	47	37	10	30
	83	27	7	20	46	37	9	27
	84	26	7	14	42	35	7	37
85	25	7	18	32	26	7	42	
タイ	1960	39	8	31	23	12	11	38
	65	32	6	26	25	18	7	43
	70	23	4	19	31	23	8	46
	75	14	3	11	45	37	8	42
	80	18	4	14	52	38	14	31
	83	14	3	11	49	38	11	37
	84	16	4	12	47	35	12	36
85	16	4	12	49	37	12	36	

出所：1960～83年数値は第1図に同じ。

1984, 85年数値は U. N.「アジア太平洋統計年鑑」1986～1987による。